

# boy salon in Echigo Tsumari Art Triennale 2018

## PAPERS 13

越後妻有アートトリエンナーレ  
2018 参加レポート

この夏、boyは「越後妻有アートトリエンナーレ2018」に参加させていただきました。お客様である建築家ユニットによる作品『羊の美容室』に立つ美容師として、というユニークな参加方法で。

2カ月にわたる開催にあたり、事前準備から実施までこのプロジェクトに携わった4名のスタイリストから、その模様をリレー形式でお伝えします。

あれは今年の2月はじめ。

「大地の芸術祭への出展が決まりました！僕たち、美容室を作ります。協力して欲しいんです。」

なにになに？『羊の美容室』？！

「羊の美容室を通った（体験した）人は、ヘアスタイルが変化して、気分も変わって、十日町の街や野山へ広がっていく。たくさんの人がその美容室を通る（体験する）ことで、変化した人が増えるほど、その十日町の景色が変化していく」——お客様で建築家、岡藤石さんのコンセプトを知った瞬間に、「ぜひ参加したい」と思った。

そこから7月末の開催へ向けて、岡藤石さんとの打ち合わせを重ねた。この企画は、絶対に私たちboyじゃなきゃって、boyだからこそ出来る！って確信して。  
(Arisa Abe)

私は浮き足立っていた。なぜなら……いまから3年前、大地の芸術祭に応募したことがあったのだ！

アート好きでクリエイティビティ溢れるboyに憧れて入社した私は、スタイリストになってからは、サロン以外で活動する場所も求めていた。自分たちが興味のある場所でやれば、同じ趣味の人が集まるはず！と行き着いたのが大地の芸術祭への応募だった。

結果は惨敗だったのだけど、まさか3年後にこんな形で夢が実現するなんて！！

イベントなどでの出張美容室経験があった私は、初日の参加に立候補。

メイン会場のキナーレでは開会式もあって、活気がすごかった。何よりも感激だったのは、大好きなアーティストであるレアンドロ・エルリッヒとお話してきたこと！しかも現地でも娘さんのヘアセットをさせてもらい、その次の日にはなんとboy Attieへ息子さんのヘアカットをしに来てくれた！世界的アーティストがboyを知ってくれたのも、44カ国350組以上のアーティストが集まる芸術祭ならではの。（Misai Yaeshima）

私が参加することが決まった時、自分なりにテーマを決めた。“癒し”の『羊の美容室』にしよう。

この美容室はとっても不思議。外から見たらなんかわからないけれど、知りたくなるし触りたくもなる。無意識に手が伸びている人も多かった。

中は、真っ白な羊毛とライティング、緩やかな音楽の



Cutting in a warm woolen environment Echigo Tsumari 2018 Niigata  
Nana from boy Attie cutting and styling her customer.



波長が合っていて気持ち良い。

「まるで草原の中にいるような感覚。時間の流れも緩やかに感じる！」と言うお客様もいらした。また中に入ると、たくさんの方がのぞいたり、写真を撮ったり、外から中にいる人と会話してみたり、まるで自分がこの羊の美容室の作品の一部になったような不思議な感覚になった。

この経験を通して一番うれしかったことは、羊の美容室でboyを知って、東京のboy Tokyoまでたくさんの方が足を運んでくれたこと。また反対に、boyを通して羊の美容室を知り、新潟まで来てくれたこと。

新潟では、たくさんメディアにも取り上げていただきました。いろいろな出会いがあり、繋がりが生まれました。これからもこの経験を生かしてboyでいろんなことに挑戦していきたいです！（Ayaka Namekawa）

『羊の美容室』は幻想的な佇まいでした。こんな作品の中でヘアカットができるなんてラッキー！と、非日常的な空間に、気持ちが高揚しました。

最後の9月三連休。大地の芸術祭もこの三連休で終了。会場もそれまでで一番盛り上がりました！海外からのお客様も多く、思い出作りにヘアスタイルを任せてくれたり、お友達を呼んで盛り上げてくれたり。羊の美容室を通して、boyをいろんな方に知っていただけたように思います。

最終日に差し掛かると、噂が噂を呼び、羊の美容室のモコモコの中で髪